

つたえる地域 つながる地域

# 社会とアート 結び付きは

## 現代芸術教室「アートのイズ」主催シンポ

八戸

八戸市からアートを発信しようと、八戸学院短大幼児保育学科美術専任講師の佐貫巧さんが中心となって活動する現代芸術教室「アートのイズ」主催のシンポジウムが4日、同市三日町の八戸ニューポートで開かれ、活動報告と座談会を通し、美術教育やアートによる街づくりなど、社会におけるアートの新たな可能性を探った。(三浦千尋)

### 美術教育、街づくりー可能性探る

アートのイズは、3〜10歳 市美術館と連携した「出張の幼児・児童を対象に20 アートのイズ」も行っている。14年に開講。15年から始まる。



教育や街づくりなど、アートと社会との関わりについて意見交換するパネリストら

16年には八戸工大二高美術コース教員の松本秀樹さんを講師に迎え、大人を対象にした「大人のアートのイズ」もスタートした。

この日は、東京の立川文化芸術のまちづくり協議会委員の塩川岳さん、佐貫さん、松本さんがパネリストとして参加。司会は八戸市芸術環境創造専門員の大澤苑美さんが務めた。

初めに、それぞれが取り組む活動や成果、事例を報告。その後「地域・美術館・コミュニティ」をキーワードに意見を交わした。

美術に興味を持つ若者が減少傾向にあることについて、塩川さんは「美術を社会の中で生かせるような人材を育てることも大切。美術家がプレーヤーも、コーディネーターもするとう機運を高めていくことが必要」と述べた。

参加者はパネリストの意見に耳を傾けながら、社会とアートとの結び付きについて関心を高めた。